

血液培養検査における簡易 CPDX スクリーニング検査の有用性

◎永田 悠起¹⁾、松本 美咲¹⁾、加藤 雄大¹⁾、杉山 裕衣¹⁾、松久保 修¹⁾、永田 篤志¹⁾、田中 浩一¹⁾、中根 生弥¹⁾
JA 愛知厚生連 豊田厚生病院¹⁾

【目的】血液培養検査において第3世代セファロスポリン系薬耐性菌(以下、第3世代耐性菌)を早期に検出する事は患者の治療方針に影響を与える。当院では24時間体制で簡易CPDXスクリーニング検査(以下、簡易検査)を実施し第3世代耐性菌の早期報告を実施している。今回は簡易検査の有用性を調査したので報告する。

【材料と方法】当院において2018年4月から2021年3月までの3年間に血液培養検査にて*E. coli*、*K. pneumoniae*、*K. oxytoca*、*P. mirabilis*を検出した793症例を対象とした。簡易検査は血液培養陽性サブカルチャー時にボトル内用液をCA羊血液寒天/VCMチョコレートEXII分画培地(日水)に画線塗抹後、VCMチョコレートEXII培地の中央にセンチ・ディスクCPDX(日本ベクトン)を留置し35℃にて培養した。阻止円径の判定にはCLSIの基準を参考としR判定の株を簡易検査陽性とした。使用機器は血液培養機器、BACTEC FX(日本ベクトン)、BACT/ALERT 3D(ビオメリュー)、菌種同定、MALDIバイオタイパー(ベックマン)、薬剤感受性試験、WalkAway 96 plus(ベックマン)を用いた。薬剤

感受性試験の判定はCLSI M100-S26に基づき判定を行った。CAZ、CTX、CTRX、CPDX、AZTのいずれかが耐性であった場合を第3世代セファロスポリン系薬耐性(以下、第3世代耐性)とした。またを初めて第3世代耐性菌を検出した症例にAmpC/ESBL鑑別ディスク(関東化学)を用いて耐性機序の検索を行った。

【結果】簡易検査結果を報告できた症例は793症例中468例(59%)であった。簡易検査で陽性と判定されたのは66症例、その内第3世代耐性を認めたのは64症例であった。簡易検査で陰性と判定された症例は402症例であり、その内第3世代耐性を認めたのは3症例であった。簡易検査陽性症例でAmpC/ESBL鑑別ディスクを実施したのは39症例(ESBL産生菌:36症例、AmpC産生菌3症例)であった。簡易検査陰性症例で実施したのは3症例(AmpC産生菌:1症例、ESBLおよびAmpC産生陰性:2症例)であった。

【考察】簡易耐性検査はESBL産生菌やAmpC産生菌等の第3世代耐性菌を早期に精度よく推測する事が可能であると考え。連絡先:0565-43-5000